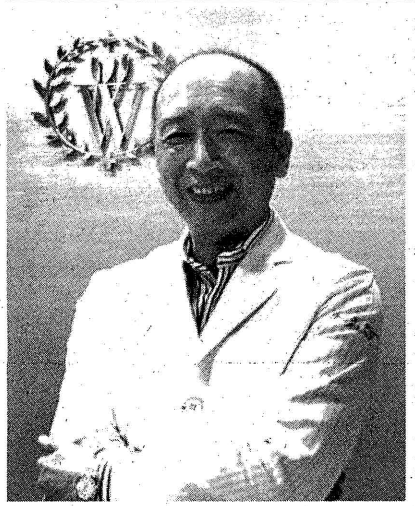
県西部を彩る色やカタチ

万華鏡（カレイドスコープ）40

連携し和と輪を広げる

渡邊 清治さん 小田原医師会長



小田原駅東口の渡邊内科クリニック院長の渡邊清治さん（59）は、小田原市と箱根・真鶴・湯河原町の医師ら約300人で構成される小田原医師会の新会長に先月就任したばかり。

小田原市立新玉小、白鷗中、県立小田原高校、北里大学医学部で学んだ。同大病理医（講師）、平塚共済病院消化器科医長を経て17年前、縁に導かれ故郷の小田原で開業。母校の非常勤講師を務める。

開業と同時に入会し、さまざまな学びを得た医師会で、これからは指揮を執る立場となったが、「連携し、コミュニケーションがいいのが当医師会の長所」と自負。今後は行政との連携、基幹病院である市立病院との連携をさらに強化。人の「和」をテーマに、つながりの「輪」を広げ、地域医療をレベルアップさせたいと意気込む。

幼少時は体が弱く引っ込み思案。しばしば病院通いし、「町のお医者さん」への憧れがあったというが、本格的に医師を目指したのは高校卒業後。漠然と興味のあった理系で大学受験に挑み、失敗。「浪人して、医学部を目指す」と一念発起した。

無謀なチャレンジだったかもしれないが、達成できたのは「当時、衣料品店を営んでいた両親の支援があったからこそ」と振り返る。この経験から、やりたいことの実現へ突き進む力強さも備わった。

「常に前を向いていたい」「反省はするが、後悔はしない」がモットー。自身の病院経営では、地元の富士フイルムが開発した経鼻内視鏡検査など苦痛の少ない最新医療機器を積極導入。がん早期発見や生活習慣病予防、アンチエイジング（健康寿命の増進）などに重点を置く。

私生活では月1度の医師会ゴルフ同好会が楽しみの一つ。夫人と一女一男の家族サービスにも気を配りつつ、いまや唯一の趣味といえるゴルフは「体が動く限り続けたい」と、お茶目な表情をのぞかせた。

※毎週水曜掲載